

# 第1学年 総合的な学習の時間 学習指導案

日 時 平成16年10月20日(水) 5校時

場 所 中学校1年生教室

対 象 第1学年 男子5名 女子4名 計9名

指導者 照井聡樹 三上智子

1 単元名 ふるさと柳沢に学ぶ ~ 柳沢の自然・人・文化に学ぶ~ 草木染め

2 単元について

## 【教材観】

本校の総合的な学習の時間の学習テーマは「ふるさと柳沢に学ぶ~ 柳沢の自然・人・文化に学ぶ~」である。生徒は、自分たちが生活する地域の自然や人・文化と関わることを通して、ふるさと柳沢を様々な角度から見つめ直し、関わる過程で生じた疑問や願いを基に、自ら課題を設定し、過程を大切にしながら、解決に取り組んでいる。

第1学年では、地域の豊かな自然で育まれた自生植物を材料に「草木染め」の活動を題材として設定した。身近な植物の葉や、樹皮、花などを実生活に役立て、潤いをもたらすために創意工夫してきた先人の苦労を追体験しながら、その英知の深さを感じ取り、学んだことを自分の手で作品を製作する過程を通して、ふるさと柳沢の自然や文化に触れ、同時に課題を解決する能力を育てることができる題材であると考え、設定した。

## 【生徒観】

生徒は、草木の汁が服について色がとれなくなる経験から、草木で染色ができそうだと感じているが、「草木染め」は全く初めての経験であり、活動を始めた当初は、花卉の色などの植物材料の色をそのまま繊維に染めることができると考えていた生徒がほとんどであった。

しかしながら、これまでの活動の中で、材料を煮出してつくる染液の色が濃く見えてもよく染色できない経験や、媒染剤で媒染すると元の染色の色とは違う色に染まるなどの経験を重ねながら、「草木染め」の難しさと奥の深さを感じとり始めている。

入学以来の生徒実態として、4月と9月に実施した6つの力のアンケートを分析すると、問題解決力の伸長が顕著である。「草木染め」の染色の過程での試行錯誤を通して形成されたと考えられる。反面、問題解決力以外の数値は低下しているように見える。これは、4月以来の活動を通してそれまでの過大な自己評価が適正になされるようになったためであると判断できる。

## 【指導観】

指導にあたっては、少人数の利点を生かし、生徒が個々に器具を使用して、工夫を凝らして染色を行う環境を整えることにより、意欲をもって課題解決に取り組ませたい。

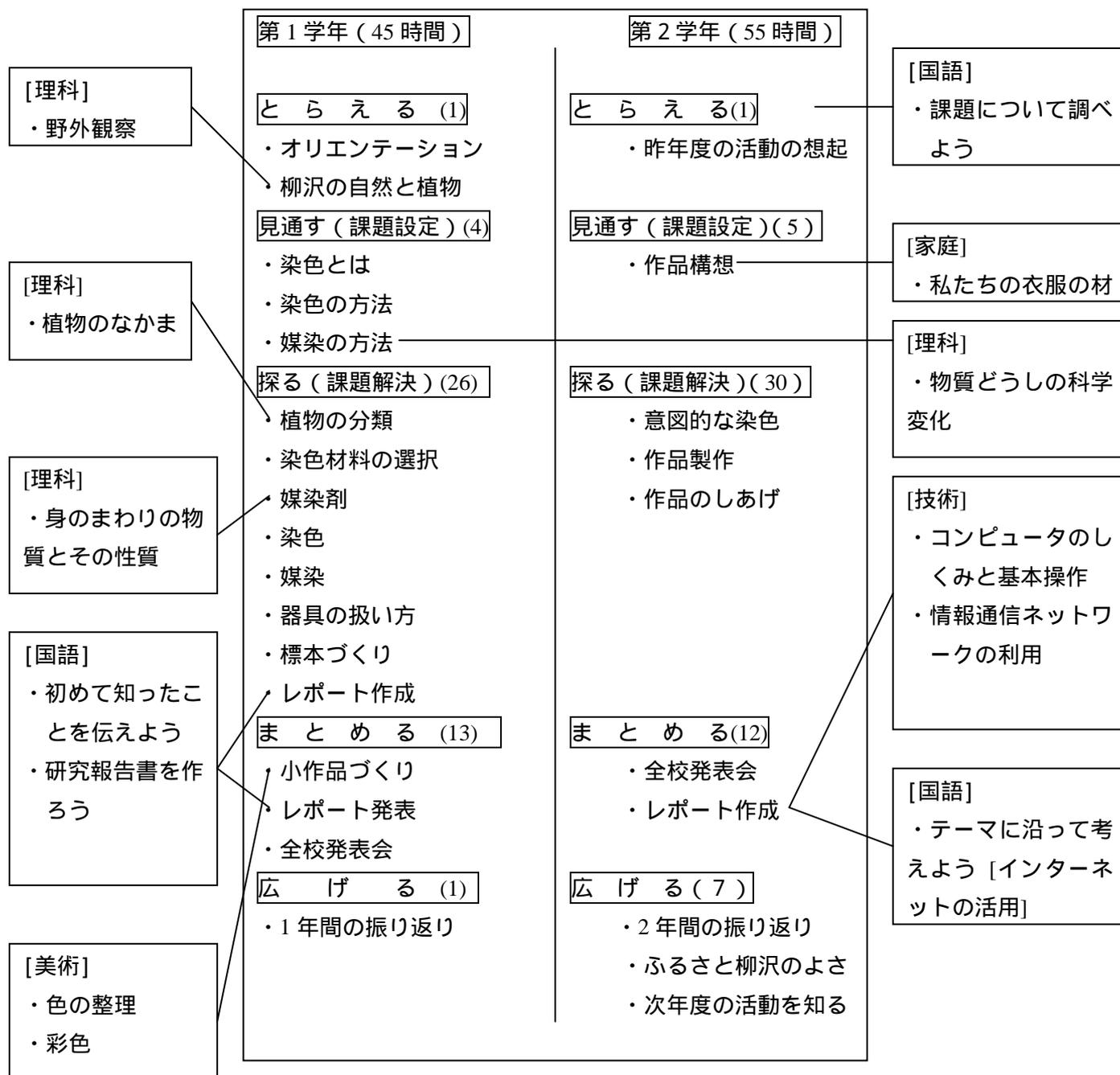
また、限られた時間の中で「濃い」「むらがない」「洗っても色落ちしにくい」などのよりよい染色をするためにはどうすればよいかを、活動を通して体験的に学び取らせたい。その上で校外学習での染物屋訪問や染色技術の学習を行い、先に個人ごとに体験的に獲得した染色の知恵を、後で専門家の技に触れて確認・修正することで、課題意識の深まりを課題追究の原動力にしていきたい。

### 3 単元のねらい

- (1)「草木染め」の活動で生徒自ら課題を設定し、追究していく活動を通して、自ら学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
- (2)「草木染め」の活動を通して、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。
- (3)各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにする。

### 4 基本構想図

ふるさと柳沢に学ぶ ～柳沢の自然・人・文化に学ぶ～ 草木染め



段階 (時間)	学習活動	評価規準	具体の評価基準	主な支援
		とらえる(1)	・オリエンテーション	
見通す(4)	・タマネギで染色をする ・染色の手順を知る(染液・媒染・媒染剤) ・染色の予想をたてる			
探る (26)	・課題設定(自分の求める色の決定)をする ・染色の構想をする(植物材料・媒染の有無・媒染剤の選定) ・染色材料の植物採取をする(自宅・学校の周辺) ・染液作り 染色 媒染(先媒染・後媒染) 洗浄 ・課題・追究方法の再検討と情報収集 ・染物屋への訪問(校外研修)とインタビュー ・植物繊維(木綿など)への染色の方法 ・フェルトづくり ・毛糸の編み方を知る ・色名の学習			
まとめる(13)	・まとめの小作品製作 本時[4/13] ・レポート作成 ・全体発表会	・課題解決のための情報を集めることができる。 ＜情報活用能力＞ ・集めた情報を取捨選択して使うことができる。 ＜情報活用能力＞  ・課題解決に向けて、最後まで粘り強く取り組むことができる。 ＜実践力＞	・よりよい染色のために情報を収集・交換することができる。 ・集めた情報をもとに、よりよい染色のしかたについて、自分なりの考えをもつことができる。  ・良い染色方法を求めて課題解決の方法を修正しながら、活動することができる。	・情報を解釈して、自分なりの考えをもつことの大切さに気づかせる。  ・何度か自己課題に立ち返らせ、修正しながら粘り強く取り組ませる。
広げる(1)	・1年間の振り返りをする ・新たな課題設定をする			

## 6 本時について

### (1) 本時の活動にかかわるねらい

これまでの「草木染め」の学習をもとに、集めた情報を取捨選択して使うことができる。

< 情報活用能力 >

### (2) 本時の活動にあたって

本時は、2時間続きの授業の2時間目である。

1時間目は、1年間の「草木染め」の学習の集大成の活動として小作品（小物入れ）を製作することを知らせる。小作品製作のために、これまでに製作した染色標本を色ごとに分類し、ポスターカラーを用いて作品イメージの視覚化（作品のイメージ画の作成）を行う。

本時では、導入場面で個々に自分の作品イメージの発表を行なわせたい。展開場面の前半は、イメージ画どおりの作品を作り上げるために、色と材料を明確にした染色計画を立てさせる。後半、個々の染色計画の発表とよりよい染色のためにお互いの経験をもとに助言を発表させることを通して、これまでの「草木染め」の学習で得た情報を使い自分なりの考えをもつ時間にしていきたい。

### (3) 本時の展開（2 / 2時間）

段階	学習内容	予想される生徒の活動	指導上の留意点（資料）
導入 (10)	1 作品イメージの発表をする。	1 1時間目に作成したイメージ画を使って、自分の求めている色名と材料となる植物、染色する繊維を明確にした作品構想を発表する。	・構想の段階で求めている色を言葉で表現し、あるいは聞いて理解できるように、微妙な色の違いを表す色の名をあらかじめ指導して、共通のものにしておく。
展開 (35)	2 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">1年間の「草木染め」の学習をもとに、自分のイメージどおりの色と材料で作品を作ろう。</div> 3 課題の追究をする。	2 個人ごとにイメージ画どおりの作品を作り上げるための染色計画を立て、全体の前で発表する。 3 よりよい染色をする手立てを話し合う。	・まず個人の課題解決を図らせたい。どのような植物・媒染・染色工程で染色をすれば、イメージ画で描いたとおりの作品ができるのかを、1時間目に分類した染色標本と1年間の学習で蓄積したポートフォリオをもとに考えさせ、全体の前で発表させたい。（染色標本） ・染色計画の個人発表から2～3例を抽出して話し合わせる。よりよい染色をするために、互いのもつ異なる経験や情報をもとに、助言させたい。
終末 (5)	4 次時の活動内容を知らせる。	4 次時の活動内容を知り、意欲を持つ。	・次時は作品製作を行うことを知らせ、活動意欲を高めたい。

### (4) 本時の評価

集めた情報をもとに、よりよい染色のしかたについて、自分なりの考えをもつことができたか。

（学習シート、評価カードを通して）

< 情報活用能力 >